

2008.5.2(金)~5(月)

## 南会津、奥只見 村杉半島

佐藤敦子、佐田務、佐藤英明

### 5月1日 アプローチ

佐田務

最終の新幹線の中で、3人でビールやワインやカニを喰ったり飲んだり喰ったりする。

小出のビジネスホテルに着いて荷物を降ろし、近くのひなびた居酒屋でさらに少し飲み、部屋に帰って爆睡する。

### 5月2日(金)晴れ

船着場 06:35 ~ 半島上陸 07:00 ~ 送電線下 11:30 ~ 横山直下 16:00

5時にタクシーに乗り、1時間半後に田子倉湖の船着場に着く。料金1万6千円。小さな船で湖を横断し、対岸の村杉半島に上陸する。料金1万5千円。この山域は田子倉湖に囲まれて、まるで半島のような形になっている。村杉半島とは、言い得て妙だ。言葉の響きもいい。敦子さん憧憬の山域でもある。

今年は雪が少なく、上陸地点は急傾斜のガレ場。のっけから急登となる。雪なんか、かけらもない。急なガレとヤブをしばらくかき分けると、小尾根に辿り着

く。ここにも雪はない。逆に虫が多い。沢の高巻をえんえん続けているみたいだ。しかし、何か知らんきれいな花が、たくさん咲いている。なごむ。

いくつかの小尾根を合わせて、半島の脊梁にあたる尾根にでると、やっと雪が出てきた。しかし、雪の上の歩きは速度が格段に速いので、雪上歩きはあっと言う間に終わって、またすぐヤブになる。これまでの道程を文字で書くと、

藪藪藪藪土藪藪藪藪藪枝  
藪藪藪藪雪藪藪藪藪藪藪  
藪雪藪藪藪雪藪雪藪雪雪  
藪雪藪雪藪雪藪藪藪藪藪  
藪藪藪藪藪藪藪藪藪藪藪  
枝藪雪雪藪枝

となる。最初のピークである横山が見えるようになると、やっと雪が増えてくる。快適だ。文字で書くと  
雪藪雪藪藪雪雪藪雪枝雪  
藪雪雪藪雪雪雪藪雪雪藪  
雪雪藪雪雪土藪雪雪藪藪  
となる。雪山に来ているはずなのに、雪があるだけで嬉しい。喜びの妥協点が、極端に低下している。

雪の上を暫く歩く。楽しい。時おり、顔を出すヤブの下にも、いろんな花がたくさん咲いている。これほど花が連続するのは、初めての経験だ。特にカタ

横山から田子倉湖の展望



田子倉湖を渡る。

クリの大群落は、凄かった。

横山の手前からヤブの稜線を避けて、雪がある左斜面を大きくトラバースする。時々雪面が割れて、その先端から水が滴り落ちている。1.5リットル持ってきた水筒の中の水は、とっくに飲み干した。時々、雪塊の先端からにじみ出る水滴で、のどを潤す。

横山の手前で、今日の行動を終わりとする。のどが渴いてしょうがなく、雪を溶かしてお茶を作るのを待ちきれず、ワインをがぶ飲みする。うまかった。

敦子さんが作った焼肉を食べ、満天の星とダム夜景を見ながら、いつのまにか爆睡する。

<感想>

「分けいっても分け入ってもヤブの山」ヤブ、ヤブ、ヤブ……。あ～、いったいどれくらいヤブこぎしたことか。けど、まだ先が見えん。1日目と2日目を合わせた行動時間は約21時間。そのうちの8割くらいは、ヤブの中にいたような気がする。つらい山だった。けど、いい山だった。

5月3日(土) 晴れ

佐藤英明

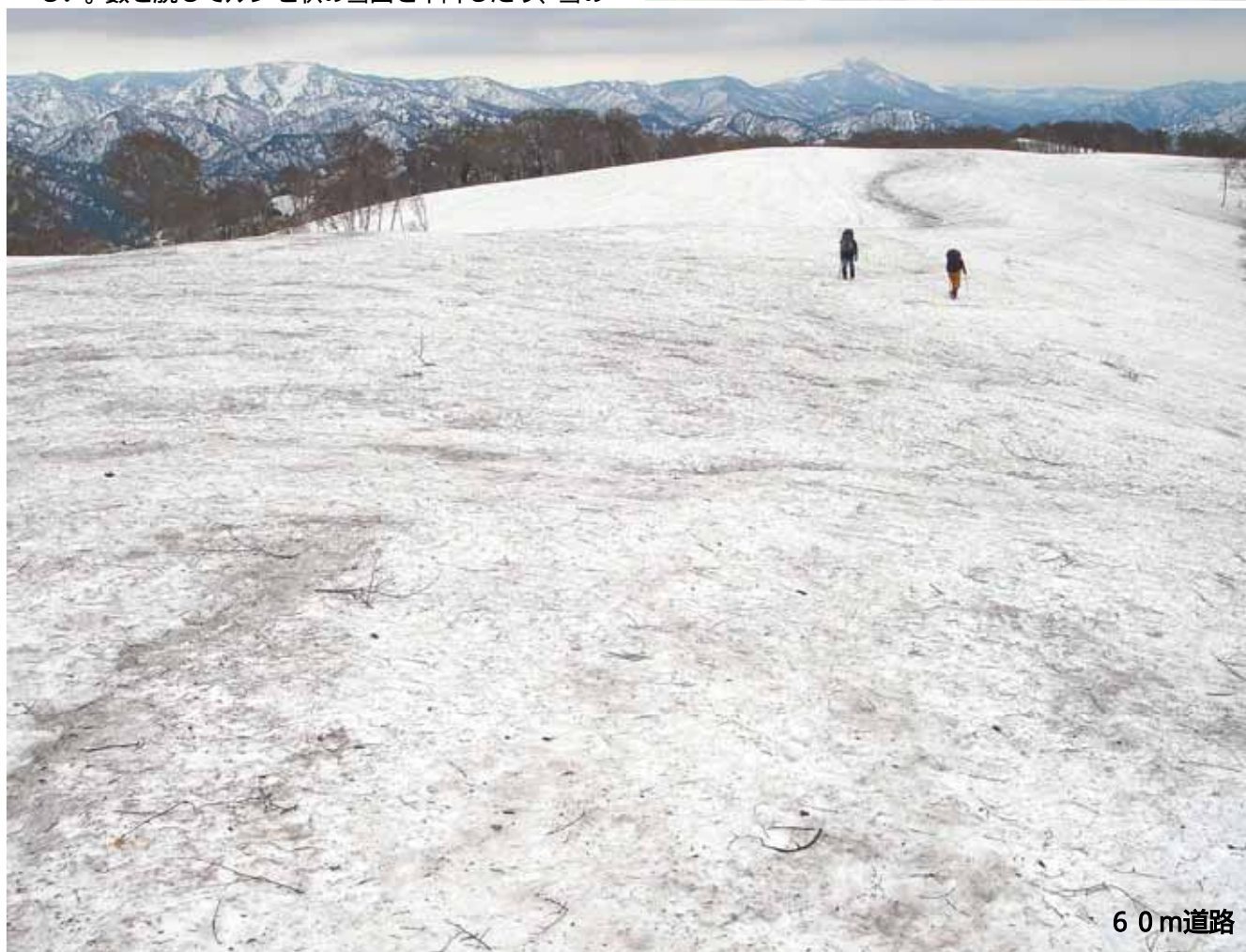
横山 05:30 ~ 横山 07:00 ~ 10:00 / 11:30 猿倉山 ~ 大川猿倉直下 17:25

雪の量が増えてくるが、ルートファイディングが難しい。藪を脱してレンゼ状の雪面を下降したり、雪の

急斜面をトラバースしながら距離を伸ばす。ザイルも使う。雪が割れていたり、なくなると、アイゼンを着けたまま、密藪に戻る。アイゼンやピッケルは、藪に引っ掛かり、悶え苦しむことになる。

猿倉(べいくら)山から大川猿倉山までは、殆ど雪がない! 6時間のヤブ漕ぎは前代未聞、人生初体験だった。ブロックと雪庇と藪をパズルのように渡り歩き、ようやく大川猿倉岳頂上直下の雪田にテントを張る。時間切れギリギリだった。

そこから見える山々は、飯豊、守門、浅草、未丈ヶ岳、魚沼駒ヶ岳、中ノ岳、毛猛、会津朝日岳、大幽朝日岳、丸山岳、梵天岳、坪入山、窓明山、三岩岳、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳……。



### <感想>

2年越しで計画していた「村杉半島」に行ってきました。ワインを全部で5本も持って行って、重かったけども、とても贅沢で充実した登山になりました。灼熱地獄と頑強な藪との戦いでもありましたが、たくさん花と雪の60m道路に癒されました。

半島の突端からのアプローチに拘ったため、猿倉山(べいくらやまと読みます。マタギ語で猿=べい)から村杉岳まで、前代未聞の藪に嵌ってしまい三羽折ノ高手から奥只見湖に降りました。

田子倉湖をボートで渡り村杉半島に上陸。記録によると雪がある筈なのだが全くない。いきなりガレ場登りの核心!になる。ここで落ちたら湖にドボンなので緊張する。

ガレ場を過ぎると、石楠花や山葡萄などの灌木の藪に苦戦しながら只々ひたすら登る。岩団扇、石楠花、椿、猩猩袴、片栗など、早春の花々に癒される。

1000mを越えたあたりから、ようやく雪が拾えるようになる。雪とヤブを交互に進むが、夏のような暑さに体力を消耗する。虫も大量に飛び交い、刺されて顔中ボコボコになる。お盆の沢登りみたいだ。

強烈な藪は続く。僅かでも雪面が出てくると小躍りしてしまう。宿ノ塔を越えたあたりから、ようやく雪が出てくる。

村杉岳からは先は、打って変わって、癒しの空間に

なる。延々と2時間も続く60m道路と言われる幅広い雪尾根と山毛櫸林に感激する。

丸山岳から窓明山に抜ける計画であったが、日程的に厳しいので、三羽折ノ高手を経て倉前沢山から大鳥ダムへと下山する。新緑と嚙柴の白い花、大鳥川の青い水面が美しい。

大鳥川沿いの林道は、ブロックの落下に注意しながら2時間ほど歩く。下山後、飛び込みで入った大湯温泉の山菜料理で下山祝いをしました。

来年のゴールデンウィークは、今回果たせなかった後半を繋げたいと思います。奥只見ダムの大鳥から入って、村杉岳で一泊、会津の黒部川と言われるメルガ岐沢で焚火と釣りを楽しんで、岳人マイナー12名山の丸山岳に登ります。下山は坪入山を経て小豆温泉といったプランです。一緒に行ってくれる人いませんか？

何故、半島と呼ばれるのかということ・・・南北に長い尾根が、田子倉湖と只見湖に両側挟まれているからです。地図を見るとなるほど半島です。

真夏のような日照りと密藪との格闘で熱中症になってしまいましたが、村杉岳から先の雪の60m道路は、それまでの労苦を忘れさせてくれる素晴らしくも雄大で癒される景観でした。



会津朝日岳の遠望



カムシバの花

## 5月4日(日)晴れ

佐藤敦子

大川猿倉直下 06:00 ~ 大川猿倉 07:00 ~ 宿ノ塔 11:15  
~ 村杉岳 15:00 ~ 1395m 16:00

いよいよ、今日は念願の村杉岳だ。テント場から見える、会津朝日岳、大幽朝日岳、丸山岳、梵天岳、坪入山、窓明山、三岩岳、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳は、二年前見た純白の山並みと違い、白と黒のまだら模様になっている。今年は、この境界はどこも雪解けが早かったようだ。

村杉までの稜線は、黒々としたヤセ尾根が続いている。この分だとまだまだヤブとの戦いが続きそう。しかし、今日は、ヤブ漕ぎも少々楽だ。気温が低く風があり、しのぎやすくなったのと、ヤブ漕ぎにも慣れてきたせいだ。

塔ノ岳までは、両岸が切れ立った30cm幅くらいのヤセ尾根が続く。普通ならハラハラドキドキで通過するような箇所だが、こんな時、ヤブ漕ぎはありがたい。掴むモノが豊富にあるし、もし、滑落してもこれだけのヤブならどこかにひっかかりそう。足元には、イワチワヤカタクリの群生が続き、ヤブ漕ぎの辛さを和らげてくれる。

途中、単独の男性とすれ違う。この方は村杉の肩にテントを張り、横山まで往復するという。こんなヤブ漕ぎを一人で往復するとは！世の中には立派な方がいるものだ。それに比べ、俗人の私は今晚、村杉で飲めるワインやつまみのことばかり考えている。

1400mを越えたあたりから、雪の量が増えてくる。2日半後にようやく、雪原を歩けるとは！こんな雪山は初めてだ。

村杉の肩に向かう途中、さっき出会った男性の踏み跡をたどると、雪面のトラバース後、尾根に向かって直登している。しかし、尾根には今にも落ちそうなブロックの固まりがのっかっている。あんなのに当たったら、即死に違いない。思わず踵を返す。これも最後の頑張りだと言いつつ聞かせ、安全なヤブルートを取る。

対岸の沢筋にドドーンと雪崩が発生。雪や泥の塊がゆっくり流れ、雪の量は次々に膨れていき、あらゆるものを飲み込んでいく。恐ろしい瞬間だった。

2日半のヤブ漕ぎを経て辿り着いた村杉岳！感無量であった。ここから60m道路と呼ばれる幅広い尾根が続く。両側に山毛櫨林が続き、右手は未丈や毛猛連山、左手は丸山岳から会津駒ヶ岳の稜線が望まれる。素晴らしい光景だ。

眼下に大鳥ダムが広がる、1395mのピークでテントを張る。ここまで無事、来られたことに感謝しながら、美味しいお酒を飲んで眠りに就く。

## 5月5日(月)曇り

1395m 05:30 ~ 三羽折ノ高手 06:30 ~ 倉前沢山 07:15 ~ 上大鳥橋 09:15 ~ 林道終点 11:00

村杉岳から大熊峠、袖沢峠を経て、丸山岳から窓明山に抜ける計画であったが、日程的に厳しいので、三羽折ノ高手を経て倉前沢山から大鳥ダムへ下山するルートを取る。前半のヤブとの苦闘ルートと違って、60m道路は、まさに癒しの空間だ。夏に何度も訪れ



三羽折ノ高手



村杉岳

た末丈ヶ岳や、二年前にたどったメルガ俣を違った季節に、別の角度から眺める。これが、山をより奥行ある味わい深いものにしてくれる。

倉前沢山ピークの手前地点から東西に尾根が続く。東面の尾根を下るとメルガ股沢へ、西面は大鳥ダムへと続く白滝沢左岸尾根である。ここからは急斜面になり、やや緊張して下山する。

山毛櫨の新緑とタムシバの白い花、大鳥川の青い水面が美しい。約2時間で、上大鳥橋前にドンピシャ辿り着く。GPSの威力だ。

ここから大鳥川沿いの林道は、ブロックの落下に注意しながら2時間ほど歩く。今年は雪解けが早いので、危険箇所は数ヶ所であったが、雪が多い年、この地を通るのは恐ろしいと思いながらフキノトウを摘む。

奥只見ターミナル・レイク・ハウスでバスを待つ時間にシュラフやテントを乾かし、ビールで乾杯。

その日は飛び込みで入った大湯温泉泊。山菜料理やイワナの塩焼きで下山祝い。

連日、晴天が続いた山行とは打って変わって夜半には土砂降りとなった。充実した山行の思い出に浸りながら帰路に向かう。

来年は、大鳥ダムから入山して、村杉岳を経て、メルガ股沢から丸山岳へと、今回、果たせなかった後半ルートをつなげたい。

#### <感想>

残雪期の山は数々行ってきたけれど、こんなに暑く、虫が多く、ヤブ漕ぎが大半のルートは初めてであった。

雪原が出てくると、ルンゼ状の雪面を下降したり、雪の急斜面をトラバースしながら距離を伸ばす。ザイルも使う。雪が割れていたり、なくなると、アイゼンを着けたまま、ヤブに戻る。アイゼンやピッケルはヤブに引っかかり、悶え苦しむことになる。

二日目は暑さで熱中症になり歩けなくなる。荷物を持ってもらい、迷惑をかけてしまった。それ以来、身体を冷やす作戦に徹した。背中や胸に雪の固まりを入れる。雪を食べて喉を潤す。本当は雪は食べない方がよいのだが、暑さに負けるよりはよい。

虫が多いのには閉口した。雪山だから虫除けスプレーや防虫ネットは持って来ていない。お盆山行の時のように顔は虫に刺されてボコボコになった。

それにしてもこんな暑さは想定外だったので、毛糸の手袋、防寒着、テルモスは、余分な荷物となった。これらがなければもっと軽量化できたであろう。

苦勞して辿り着いた村杉岳は、絶景の広がる、癒しの空間であった。雪が多い2～3月頃の村杉岳は凜として、さぞかし美しいだろう。こんなに素晴らしいところなのに、長らく人の目にも触れることなく、たくさん春夏秋冬経てきたことだろう。誰もがたやすく行けないからこそ、原始の香りが残っている。その至宝を手にするには、2日半の壮絶なヤブ漕ぎの苦勞は当たり前なのかもしれない・・・と思った。

燧ヶ岳と只見湖



巨大いわな



猿倉(べいくら)山へのトラバース



60m道路

毛猛三山（遠くに駒ヶ岳）

